1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700354
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホームきらめき上の原 (ユニット名 流星・太陽)
所在地	福岡県北九州市八幡西区上の原2丁目17-11
自己評価作成日	令和1年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和2年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るいあいさつ元気な会社」と経営理念を掲げ、私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと、こころと心をつなぎ地域に貢献します。地域と一体となり認知症の方が安心して生活できる環境づくりに力を入れています。今年度は介護の質の向上のため社内で勉強会を多く取り入れていきます。また職員全員が家族や地域と共に会社でも家庭においても笑顔をたくさん繋げていくことを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、北側には自然あふれる森林と畑、南側には閑静な住宅が立ち並ぶ一角に木造二階建ての二階にある。最寄りのバス停までは徒歩5分で交通の便がよいところである。一階には地域交流室があり、学校帰りに立ち寄り子供たちも多い。子供たち主催のバザーや「カレーフェス」を交流室で催している。平成30年度に市より「ワークライフバランス表彰」を受け、子連れでの出勤や障がい者の雇用などにも力を入れ、働きやすい環境づくりに努めている。職員間の交流や健康促進を図る為の「わくわくサークル」ではボーリングやソフトバレー、夜景を見に行くなどの行事に職員は参加し、ストレス軽減も図っている。職員同士の雰囲気も良く、笑顔で利用者に接している。地域と協力し「行方不明者捜索模擬訓練」にも参加し、地域住民の理解もあり、声掛けや連絡をしてもらえる関係が築かれている。これからも地域の福祉の拠点として益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☒ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☒ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	☒ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☒ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☒ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☒ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「明るい挨拶 元気な会社」私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・こころと心をつなぎ地域に貢献します。	法人の経営理念を基に、毎年新たな事業所独自のスローガンを掲げ、各ユニットの目につきやすい位置に掲示している。毎朝の申し送り時や会議等で全員で唱和し、共有を図っている。職員はスローガンを意識しながら日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り、運動会、敬老会などに参加させて貰っている。 地域と協力し「行方不明者捜索模擬訓練」を年に1回開催している。	事業所は町内会に加入しており、職員は地域の清掃活動に参加している。地域で行われる「行方不明者捜索模擬訓練」の事前話し合いや訓練に参加し、地域住民から連絡や情報を得る関係性ができている。また、季節の野菜など頂くこともあり、事業所は利用者と共に地域住民の一員として活動や役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発行ご家族様へ送付。地域の方々にも見て頂き、情報発信しながら支援理解してもらえる工夫を心がけている。運営推進会議で認知症の勉強会を取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方、地域の方の意見や要望を 聴き、改善出来るよう取り組んでいる。2月24日に第2回行方不明者捜索模擬訓練が行われた。	利用者・家族、市職員や自治会役員など参加し、2回に1度は系列事業所と合同で開催している。利用者の状況や事故報告、外部評価の報告等を行っている。事故報告することで、声掛けの徹底など再発防止の意識づけがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず包括支援センターの方に 参加して頂き助言指導をして頂いた。	事業所の利用状況等を報告している。市職員を講師として招き、事業所の地域交流室を利用して、家族や職員、地域住民など参加し、認知症の勉強会を開催するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夕方19時まで開放している。身体拘束廃止委員会を通して運営会議等で拘束について話し合い周知している。ちょっとした声掛けが行動や意欲を制止していることもあるので、入居者様の思いを知り寄り添う介護を目指している。必要な時は家族と話し合いを持つようにしている。	年2回、管理者が講師となり、身体拘束についての法人内勉強会があり、職員は身体拘束について概ね理解している。職員は利用者の外出傾向を把握しており、注意しながら見守っている。利用者に対する地域の理解もあり、利用者がひとりで外出した際には声掛けや事業所への連絡等住民との関係も築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との会話の中でスタッフ同士お互いに注意し合い言葉による虐待(近い言葉)が無い様指導している。入浴時に皮膚の観察を行い皮下出血などある時は記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を立てている方が入居されている。入居時に日常生活自立支援事業や成年後見制度を説明を行っている。 毎月後見人の方との話し合いの場を設けている。	成年後見制度を活用している利用者がいる。会議で管理者が講師となり、職員は制度について学ぶことはある。入居時に制度の説明等、管理者が対応しており、他の職員の理解が十分とは言えない。パンフレットなどの準備はなく、必要時支援できる体制が万全とは言えない。	権利擁護に関する制度について理解するためにも、研修の機会の確保が望まれる。また、資料などの準備や関連機関との連携など、活用に向けて支援体制づくりを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い理解、納得してから契約を行っている。 センター方式をるようにして過去の生活状況を充分聞き取り意見要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時に意見や要望を頂くよう管理者・リーダーが行っている。改善できる所は改善していくよう努めている。	管理者は話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族の訪問時や書類送付の際に意見、要望を聞いている。利用者の苦手な食べ物や入浴の際の同性介護の要望など運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社長、管理者との面談がある。提案や改善の必要性があれば改善している。	部屋担当制で、職員は2名の利用者を担当している。ユニット内の職員は全ての利用者に関わっており、職員の希望による異動があっても、代わることでの利用者へのダメージは少ない。活動性低下予防の為にレクリエーションを取り入れるなどの意見については運営会議で検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員に対して感謝の言葉を述べ、不安な事や意見を吸い上げやすい環境づくりを心掛けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	20歳から75歳までの職員がおり個々の能力を発揮、お互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる。職員同士の良い所に着目し個人の強みを伸ばしながら勤務できる様に協力し合っている。	採用の際には年齢・性別の制限はなく、希望休暇など取りやすい。料理や花の手入れなど職員の能力が発揮できている。平成30年度、市より「ワークライフバランス表彰」を受け、子連れ出勤が出来るなど働きやすい環境である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	物事の原理原則を知る事で可能思考で物事を捉えられる力をつける研修や、職場内交流を図り健康促進のため発足したわくわくサークルで理念にある「笑顔になる人間関係を築く」ことに取り組むことで人権尊重を心がけている。	職員の職場内交流や健康促進をはかることで、働きやすく、利用者には笑顔で日々の支援ができています。言葉遣いなど相応しくない場面を見つけた場合は、管理者がその都度話をしたり、毎朝の申し送り時に全職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修で学んだ事をアウトプットし、社内でも勉強会を自主的に行い学ぶ組織となっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徘徊ネットワーク会員、GH経営者や管理者と情報共有している。GH協議会入会し事例発表会や研修に参加し他者との情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式の活用が信頼関係に結びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式の活用。初期段階では、本人、ご家族とのコミュニケーションを多く持ち安心して頂けるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人、ご家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式から、生まれ育って生きてきた背景をもとにケアするようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様から沢山の事を学びお互いに支え合っている関係。本人の出来ることを日々気づき協力して頂いている。感謝の気持ちを伝え出来た事は喜びを共に感じ自信を持てるように支援している。喜び、悲しみ、怒りを共に分かち合いながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、相談を行い、よりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。毎月家族通信を送っている。ご家族様が来られた時は、ご家族様だけで過ごして頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流室や自室で家族様とゆっくり過ごせるように支援行っている。	センター方式を活用して、全職員で利用者の情報を共有している。馴染みの知人・友人の訪問もあり、その際お茶を出すなど歓待している。家族と共に墓参りや美容院に出掛ける際の準備を手伝うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にソファに座られ、そっと手を握りスキニップをとっている光景をみかける。廊下を肩を並べて歩いている光景あり。お互いの居室を行き来し仲良く話されたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからもご家族様と連絡を取り合い、ご本人様の状態をお聴きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本位の暮らし方が出来るよう希望、意向は必ずお聴きしている。意思の疎通が出来ない方には、ご家族様に情報を頂き、望まれるであろう生活に近づけている。	同敷地内の小規模多機能から転居してくる利用者には情報提供があり、参考にしている。毎日の生活の中から得られる利用者の情報や、家族からの意向等を聞き取り、連絡ノートに記載して職員皆で共有している。利用者一人ひとりを見守りながら、把握が困難な場合には声にならない思いにも寄り添うよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様に生活歴を記入して頂き情報を収集している。センター方式活用。入居後もご家族様、ご本人様からお聴きする情報もあるので、スタッフで共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由に快適に過ごせるよう努めている。毎月のカンファレンスで現状の把握を行い、今後の支援を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりのない方は3ヶ月に一度カンファレンスを行い計画に反映している。ケアプラン実施評価表に短期目標の項目を掲げ毎日チェックを行っている。モニタリングの記入は3ヶ月毎に行い、項目ごとに評価を行っている。	職員は利用者の日々の暮らしに関わる中で意見や意向を傾聴している。家族には手紙や電話、訪問時等に意見を貰ったり、医療関係者から訪問診療時等に情報提供して貰っている。月に1度のユニット会議や3ヶ月毎の全体会議で提案し計画に盛り込まれるようにしている。短期目標の評価は毎日チェックシートに記載しており、変化等はその都度報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族様へ変化は書面や電話で報告し、相談の後計画に反映させケアを行っている。ご家族にいつでも記録を見て頂くよう声かけしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。 外出の希望のある利用者様には、買い物などにお連れし少しでも外出の機会を作るよう努力している。ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が住宅地のため、散歩の途中に近所の方から声をかけて頂いている。 地域の老人会の催し物に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により各週往診に来て頂き健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。 基本的には他科受診を含め家族同行の受診となり、その際、日々の様子がわかる記録物を持参している。家族が行けないときは職員が代行している。受診結果は家族、職員、かかりつけ医で共有している。かかりつけ医や訪問看護、歯科の定期往診、訪問がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2日、訪問看護師の訪問を受けている。 変化のある方は申し送りを徹底し支援している。したの小規模多機能ホームに看護師がいるため、緊急時は協力して頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活情報を提供し、病状が安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と密に情報交換し、状態変化が有るときは、その都度意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。また、終末期はご家族がホームに泊まったりされ、ご家族と協力して支援を行っている。	事業所内で看取りの対応をしており、過去に事例もある。医師の説明や指示を仰ぎながら、訪問看護を利用し、利用者の状況に応じて家族と共に、その都度できる事を実施している。家族が安心できるよう、全職員がターミナルケアの研修を受講するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の火災を想定し避難訓練を行い、消火器の使用方法和利用者様の避難誘導も行っている。火災時の自動通報装置を設置している。 地震・水害に対しては、備蓄できるものは、準備している。社内で防災対策委員会を立ち上げ、毎月委員会を実施し災害について会議を行っている。	防災の研修は法人内で行っている。法人の防災マニュアルを使用し、夜間想定火災避難訓練を消防署、利用者、職員、自治会員を含む地域住民参加で実施している。事業所は地域の避難場所にもなっているが、有事の際の備蓄品は法人間の協力体制を得られる為、3日分程度を保管している。避難訓練実施の記録が作成されていない。	有事に備え、スムーズな避難誘導などができるよう、事業所独自のマニュアルの作成について検討する機会を持つことを期待したい。避難訓練を実施しているところなので、記録に残し次回に活用していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	利用者は人生の先輩であることを念頭に、言葉使いは留意しており、スピーチクロックにならないよう、笑顔で応じる事を心掛けている。トイレ誘導は耳元で声掛けし、排泄用品は原則個々の居室より持参し、他の利用者に見られないように配慮している。夜間居室に鍵を掛ける方が一人おられるが、家族の許可でトイレ利用の際に安否確認をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないよう努めている。 おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々のその時の状態に合わせて一人ひとりのペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは、一緒に着るものを選び決めている。 2、3ヶ月に1回訪問美容師に来て頂きカットをされる支援をしている。希望によってパーマやカラーも行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。利用者様と共に配膳や食器洗い、お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。出来る方は調理を一緒に行っている。	朝食以外は配食サービスを利用し、カロリーや栄養バランスが取れるようにしている。希望の食事内容を聞き取り、月に2回は事業所で作っている。できるだけ自力で食べることを支援しており、会話や介助をしながら、職員も持参した物と一緒に食卓を囲んでいる。利用者の中には下膳や、洗ったお盆の拭き取りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。 個々に合わせて食量を決めて、バランス良く摂取される様に支援行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難なご利用者はスタッフが介助にて行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう援助している。 歩行困難なご利用者には、声かけ誘導にて介助行っている。	排泄が自立している利用者が数名いる。身体状況が低下する中、排泄に自信が持てるよう、トイレ使用を基本にしている。排泄チェック表を記録し、さりげなく声掛けしトイレ誘導する事で、歩行状態が改善したり、笑顔が見られるようになってきている。夜間はポータブルトイレやおむつで日中はリハビリパンツを使用するなど一人ひとりの状況に合わせている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のバナナ入りヨーグルト等工夫し、自然排便が出来るよう援助している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変で希望のある時は対応している。	月曜日から金曜日までは入浴の準備をし、利用者は週2回程度のペースで入浴しているが、毎日入浴をする方もいる。また、利用者の希望に添えるよう午前、午後、夜間と、個別の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。 病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方がある時は必ず申し送っている。薬局と連携し、一人ひとりの薬の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の協力もあるが、ご本人の嗜好も考慮し支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、ご本人の希望に合わせて外出などを行っている。	家族と外出する利用者が多く、家族が遠方であったり、外出頻度が少ない場合は週1回程度、職員と玄関前の花を見たり、近所の散歩や買い物に出掛けたりしている。外気に触れる機会を作るようにしており、出かけたあとは「気分が良かった」と、喜ばれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人と家族の希望で、お金を持っている方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があれば、いつでも電話できる体制はある。携帯電話を所持し、好きな時間に電話などされている方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。窓から庭園、畑が望める。ユニット内に季節に応じた飾り付けを行っている。	各居室の入り口に職員が作成した暖簾がかかっている。玄関をはじめ、至る所に花や飾りを施し、和める空間作りをしている。各ユニット内は利用者が快適に過ごせるよう、照明や音、臭気や室温、加湿等に配慮している。居室から見える野山の景色は利用者への癒しとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に過ごせる空間がある。気の合った入居者様同士、一緒に座られ話をされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や壁掛け、写真等を持って来られご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	居室内は綺麗に整理整頓している。壁には家族の写真や絵、作品などを飾っている。窓からは日差しが入り明るい。馴染みの家具や寝具と共に居心地良く過ごせるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。リスクはあるが、出来る事の発見やそっと見守る事で出来るように支援している。下膳や食器洗い、掃除機かけ等。		